

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永興 啓

ストックを直売所へ出荷してみませんか

●経営上の特性

ストックは切り花としての人気が高く、価格が比較的高値で安定しています。栽培管理についても、初心者でもポイントを押さえて管理ができれば商品として通用する花を作ることができると、直売所向きの花だといえます。なお、今回紹介する

作型は庄原ではハウス内での栽培が適しています。



ストック

●作型

▼播種（種まき） 7月中旬～下旬

▼定植 8月中旬～下旬

▼切り花 10月下旬～11月上旬

●栽培の方法

①育苗

この作型では夏の暑い時期に播種するので、苗の病気を避けるため、育苗はできるだけ涼しい場所の雨よけハウスなどで行います。播種用土は苗立ち枯れ病防止のために土壌消毒したものか市販の育苗用土を使用します。

播種後は温度上昇を避けるため、カンレイシヤ（※）をかぶせます。

※カンレイシヤ：木綿やナイロン製の目の粗い布

②八重鑑別

ストックは八重と一重の花が半々に咲きます。切り花単価の高い八重の花を栽培するために、株の特徴により播種後14日目ごろに鑑別をします。

③定植

定植の半月前には1アール当たりチッソ、リン酸、カリをそれぞれ成分量で1.5キログラム程度の基肥を入れて畝を作っておきます。本葉2～4枚のときに、株と株の間隔を12センチメートル程度離して定植します。ストックは一度曲がったら元に戻らないので、ネットをしつかり張り、生長とともにネットを上げていき、倒れないようにすることが大切です。

④生育中の管理

生育の初期は多めに水をやり、後半からは減らしていきます。品質の良い花を作るには蕾が色づくころから1～2輪開花するまでは水をやり、それ以降は打ち切るくらいが良いでしょう。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
0824-73-1132

女性からはじめる獣害対策

地域おこし協力隊 草谷 夏枝

春になり、店頭には種芋や苗も並び始め、そろそろ畑の準備。しかし動物たちによる作物への被害は年々ひどくなっています。

実は、獣害対策には女性の参加が欠かせません。そこで、今回から「女性からはじめる獣害対策」をシリーズで紹介していきます。

●なぜ獣害が起きているのか

集落に餌となるものがあり、山より里の方が暮らしやすい環境だと動物が学習したため、獣害が起きている。

Q 野生動物の餌となる物は何種類？
こたえは 次号！

●「守れる展示圃」の取り組み

市は、獣害対策の一つとして、女性を中心に獣害対策のモデルを実践する畑を市内各地域に作る「守れる展示圃」の活動を行っています。この展示圃を作るための第一歩として、女性数人から受講できる「女性の小さな勉強会」を随時開催しています。勉強会では、映像を見ながら動物の生態や必要な対策を知ることができます。獣害を防ぎたい仲間が見つかったら、まずは申し込みをして勉強会を開きましょう。

●コミュニティという女性の力

獣害対策というと、柵の設置や草刈り、果樹の剪定や捕獲など、どれも男性がやることと思われていました。

先日、林業振興課の窓口に、外来生物の講習会受講希望の女性が訪ねて来て「受講すれば私が捕獲できなくても、勉強したことはみんなに教えられる」と話しました。まさにその通り。女性は集まっておしゃべりするのが大好きです。失敗も成功もみんなと共有し、情報と体験を共有するコミュニティの場が集落の中にできると、獣害対策のはじめの一歩なのです。



西城町大屋集落「楽しい畑作りの会」も最初は2人からの活動でした。まずは知ることからはじめましょう！

「出前トーク」「女性の小さな勉強会」の申し込みは林業振興課まで。

問い合わせ

林業振興課林業振興係
0824-73-1124